

体細胞クローン技術を用いて産出された牛及び豚並びに それらの後代に由来する食品の食品健康影響評価に関する 主な論点メモ

1. リスク評価の基本的な考え方

本リスク評価においては、「体細胞クローン家畜（牛及び豚）及びその後代に由来する食品が、従来の繁殖技術（人工授精等）による家畜（牛及び豚）に由来する食品と比較して同等の安全性を有するか。」を検討することを基本とする。

すなわち、成育した体細胞クローン家畜（牛及び豚）及びその後代において、従来の繁殖技術による家畜（牛及び豚）と比べてヒトの健康を損なうおそれのある要素・要因の付加が考え得るか、また、体細胞クローン家畜（牛及び豚）に由来する食品において、従来の繁殖技術による家畜（牛及び豚）に由来する食品と比べてヒトの健康を損なうおそれのある要素・要因の付加が考え得るかについて、現在の学問・技術における知見をもとに検討する。

2. 体細胞クローン家畜の健全性の評価

体細胞クローン技術が動物個体に及ぼす影響について発育段階毎に検討し、体細胞クローン家畜（牛及び豚）及びその後代と、従来の繁殖技術による家畜（牛及び豚）とが同等の健全性を有するかについて評価する。

なお、各発育段階の動物が食用として供される可能性について考慮する。

3. 体細胞クローン家畜に由来する食品の評価

2. における評価をもとに、体細胞クローン家畜（牛及び豚）及びその後代に由来する食品と従来の繁殖技術による家畜（牛及び豚）に由来する食品の安全性上の差異の有無について評価する。また、評価のため、体細胞クローン家畜（牛及び豚）に由来する食品と従来の繁殖技術による家畜（牛及び豚）に由来する食品との栄養成分等の比較データ等も参考にする。